

環境と健康と安全への取り組み

Action Plan
No.8, 9

持続可能な社会・
環境に貢献する

Action Plan
No.13

いい会社・
強い会社になる

日本化薬グループでは、「環境・健康・安全と品質に関する私たちの宣言」を基本方針として「安全第一」、「環境経営」、「従業員の健康づくり」を推進し、事故・災害の未然防止、環境負荷低減および作業環境の改善などに取り組んでいます。

中期環境目標 (2011~2020年度)

日本化薬では、2020年度の中期環境目標を掲げ目標達成に向けた取り組みを実施してきましたが、2015年度の中間結果により、目標値をより厳しいレベルに設定し直しました。
なお、報告対象は、日本化薬単体です。

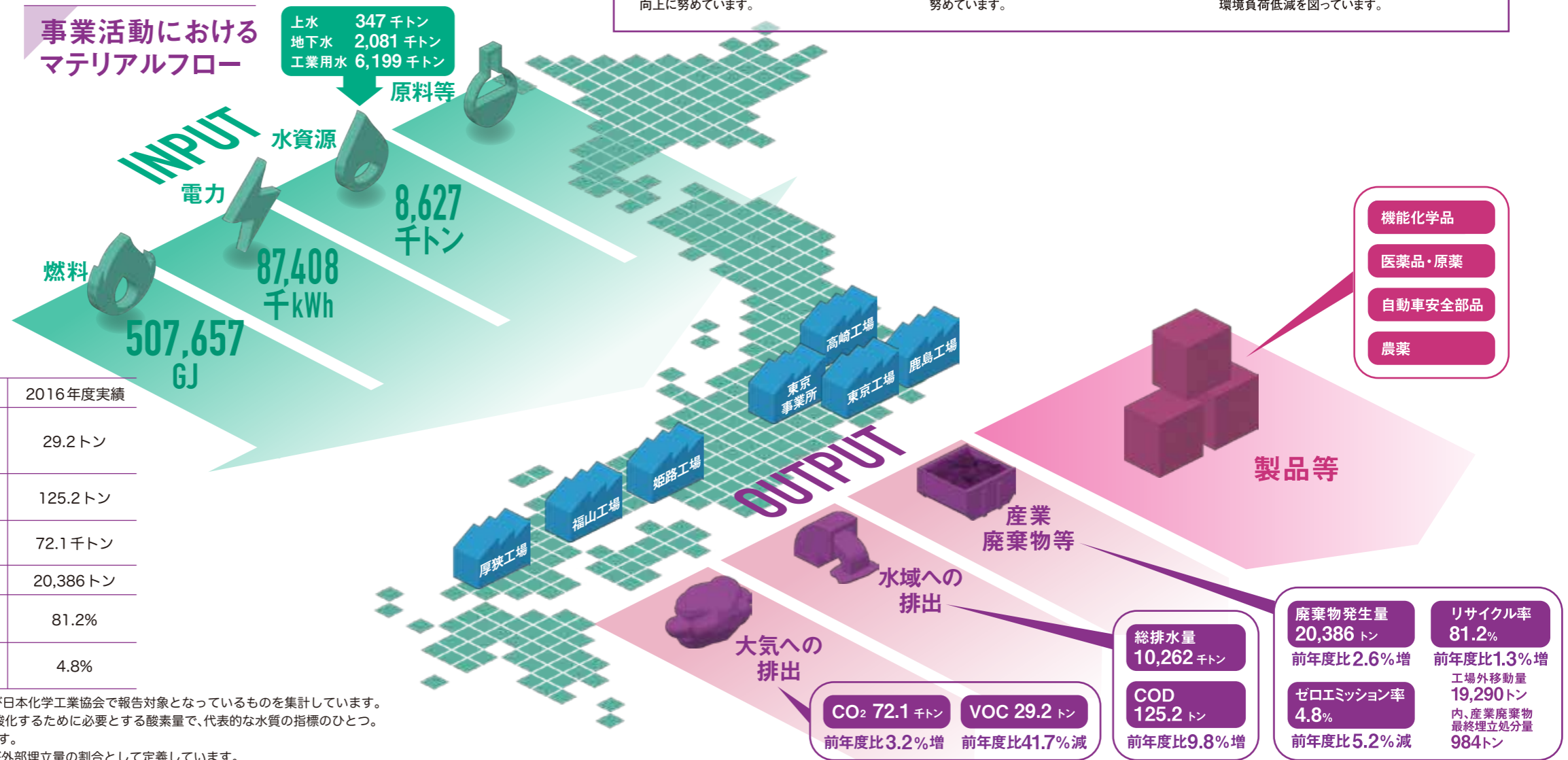
分野	項目	2020年度目標値	2016年度実績
化学物質 排出量削減	VOC ^{※1} 排出量	42トン以下	29.2トン
	COD ^{※2} 排出量	150トン以下	125.2トン
地球温暖化防止	エネルギー起源CO ₂ 排出量 ^{※3} (生産部門+業務部門)	3.8%以上削減	72.1千トン
廃棄物削減	廃棄物発生量	23,500トン以下	20,386トン
	リサイクル率	80%以上	81.2%
	ゼロエミッション率 ^{※4}	3%以下	4.8%

※1 VOC：Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物) 政令および日本化学工業協会が報告対象となっているものを集計しています。
 ※2 COD：Chemical Oxygen Demand (化学的酸素要求量) 水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標のひとつ。
 ※3 エネルギー起源CO₂排出量：2005年度(82.6千トン)を基準としています。
 ※4 ゼロエミッション率：日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義しています。

生産技術本部長メッセージ

日本化薬グループは化学技術を基盤として発展し、いまや多種多様な製品の開発・製造を行っています。市場の要求を満たすため、これまで長年にわたって培った技術や最新の知見を駆使して高品質な製品を安定供給すべく日々取り組んできました。
安全操業は、個々の従事者の自覚とそれを支えるシステムの充実が重要との認識に立ち、製造従事者の世代交代および製造所のグローバル展開に際する安全操業態勢の確立のため、教育やフォローアップに従来以上に力を入れています。

事業活動における マテリアルフロー



TOPICS

東京研究エリア[※]における省エネルギー活動

日本化薬グループの最大の研究開発拠点の東京研究エリアでは、エネルギーの合理的な使用を研究段階から根付かせるため、エリア全体のエネルギー使用40~60%を占める空調設備の省エネルギーにつながる「中央制御システム」を2016年度に導入しました。これにより、空調の使用状況の「見える化」が進み、蓄積した情報を活用してさまざまな取り組みを実施しています。空調に関する担当者とミーティングを行い、ルーム毎に必要な管理をシステム上にて個別に実施するなど、大きな省エネルギー効果につながっています。その他、集めた情報は月度の会議の資料としても使用され、エリア内に回覧することで、さらなる全体化を図っています。

※東京研究エリア：東京都北区にある機能化学品研究所や医薬研究所・間接部門等を含めた地区全体

